

I 検討の経緯

1. 検討会議設立の趣旨

災害時の女性のニーズにきめ細かく対応するため、女性の視点を防災活動に反映できる、女性防災リーダーの育成カリキュラム等を検討

2. 女性防災人材の必要性

- 過去の災害においては、避難所運営等の意思決定の場に女性が少なかったために女性の声が届きにくく、避難所での着替えや授乳の問題等、様々な場面で、女性の視点を踏まえた取組が十分なされなかったという指摘がある。
- 被災者の多様なニーズに、よりきめ細かく対応していくためには、女性の力が、防災分野においても発揮されるよう取り組んでいく必要がある。

災害時に地域や企業で防災活動の核となって活躍し、女性の声を反映できる女性防災人材を育成する必要がある。

II 報告書の概要

1. 人材育成の方向性

(1) 目指す人材像の考え方

- 災害時に、居住地域だけでなく、職場や外出先、学校、避難先などの「その場」で活躍できる人材を育成する
- 平常時においても、被害軽減のための日常の備えに役割が果たせる人材を育成する

「被災者となってもしなやかに立ち直ることができる人材」であり、その上で「地域や職場で周囲の人をよりよい方向に導くことができる人材」を目指す

(2) 育成する人材が備えるべき能力

- ① 自らの身を守るために必要な知識を身につけている
- ② 身につけた知識に基づき、適切な行動をとることができる
- ③ 周囲の人を牽引するコミュニケーション能力を備えている

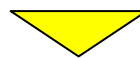
2. 人材育成事業について

(1) 人材育成事業のターゲット

- 昼間人口が多いという東京の特性を踏まえ、当面は「職場」と「地域生活」という2つの場面を切り口とした人材育成事業を実施する。

(2) 事業の実施方法

- 熊本地震以降、女性の中で高まっている傾向にある防災意識に応えるためには、リーダー的人材の育成に加え、女性が気軽に防災の講習会やセミナーに参加しやすくなるような工夫をし、防災活動に関わる女性の裾野を広げていく取組が重要である。
- そこで、人材の裾野を広げるための事業（基礎編）とリーダー的人材を育成する事業（応用編）の2段階に分けて事業を実施する。



STEP1：防災ウーマンセミナー（基礎編）

- 災害のタイムラインに沿い、基礎的な防災知識を習得

職場編

<主な実施内容>

- 帰宅困難者になった時の備え
- 3日間会社に留まるための備え
- 自宅へ安全に帰るための備え

<主な実施場所>

- 協力企業のオフィス、ターミナル駅周辺

地域生活編

<主な実施内容>

- 在宅避難をするための備え
- 避難所生活を送るための備え
- 生活再建に向けた備え

<主な実施場所>

- 地域の公民館、都有施設内会議場

STEP2：防災コーディネーター育成研修会（応用編）

- 災害時の多様なニーズを解決するための知識や行動を習得

職場編

<主な実施内容>

- 従業員の安全確保と業務継続
- 職場の復旧と生活の再建
- 災害時に職場で女性のニーズを反映していく方法

<主な実施場所>

- 協力企業のオフィス、ターミナル駅周辺

地域生活編

<主な実施内容>

- 地域における共助の仕組みを知る
- 避難所で起こりうるトラブルや多様なニーズへの対応
- 避難所生活の改善に向けた周囲との調整方法

<主な実施場所>

- 地域の公民館、都有施設内会議場

実施にあたっては、区市町村や企業等と連携し、実施先のニーズに合わせて、開催日時や会場・実施内容等を調整する